

A new scoring system for the grading of conventional chondrosarcoma: Its clinicopathological significance

薄, 陽祐

<https://hdl.handle.net/2324/6787479>

出版情報 : Kyushu University, 2022, 博士 (医学), 課程博士
バージョン :
権利関係 : © 2022 Elsevier GmbH. All rights reserved.

氏名： 薄 陽祐

論文名： A new scoring system for the grading of conventional chondrosarcoma: Its clinicopathological significance

(通常型軟骨肉腫のグレーディングにおける新スコアリングシステム：臨床病理学的意義)

区分： 甲

論文内容の要旨

【背景】軟骨肉腫は骨原発性悪性骨腫瘍の中で2番目に多い腫瘍であり、幅広い組織病理学的特徴を示す。WHO分類（2020年版）における組織学的グレードは、通常型軟骨肉腫の臨床転帰を予測する上で最も重要な因子であるがその詳細な定義は明確でない。通常型軟骨肉腫の臨床病理学的特徴をレビューし、組織学的所見の意義を検証した。さらに、通常型軟骨肉腫の新しいスコアリングシステムを提案した。

【方法】通常型軟骨肉腫60例と脱分化型軟骨肉腫21例の臨床病理学的特徴を検討した。

【結果】核異型が中等度から高度の症例は遠隔転移と相関していた。中等度・高度核異型、高細胞密度、壊死の存在、粘液性変化は全生存率の低下と相関した。一方、核異型が軽度の症例では、腫瘍死や遠隔転移は認められなかった。以上の結果から、核異型度（軽度：0、中等度：+1、高度：+2）、細胞密度 [低・高-1（疎な分布）：0、高-2（中程度分布）・高-3（広範囲分布）：+1]、壊死の存在 [（-）：0、（+）：+1]、粘液性変化 [（-）：0、（+）：+1] に基づく新しいスコアリングシステムを提案した。各グレードの定義は、核異型度が軽度の症例をグレード1、軽度核異型を除く合計スコア1~3をグレード2、合計スコア4あるいは5をグレード3とした。グレード1は18例（30%）、そのうち局所再発は5例（28%）、遠隔転移や腫瘍死はなかった。グレード2は26例（43%）、そのうち局所再発2例（8%）、遠隔転移3例（12%）、腫瘍死1例（4%）であった。グレード3は16例（27%）、そのうち局所再発4例（25%）、遠隔転移6例（38%）、腫瘍死5例（31%）であった。組織学的特徴と脱分化との間に統計学的に有意な関連は認められなかった。

【結論】通常型軟骨肉腫の核異型度、細胞密度、壊死、粘液性変化に基づく新しい組織学的スコアリングシステムを提案した。このシステムを用いることで、通常型軟骨肉腫は3つのグレードに分類できる。グレード1は非転移性、グレード2は転移性だが生命を脅かすことは稀、グレード3は転移性が高く生命を脅かすことが多い。